

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立諸富北小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的な生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童(生徒)の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	96.9%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	75%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	96.9%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	96.9%	84.9%

「将来の夢や目標を持っている」の調査項目以外は、全国平均より高い結果が出ています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	12.5%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	9.4%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	25%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	37.5%	27.4%
「30分より少ない」	9.4%	12.9%
「全くしない」	6.3%	5.7%

家庭学習については全国平均とほぼ同等ですが、まだ1時間未満の児童が5割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。1時間未満ということは、宿題のみで、自主的な学習ができていないと考えられます。家庭学習の習慣化や時間量についてはかなり個人差が見られました。

(2)改善に向けての取り組み

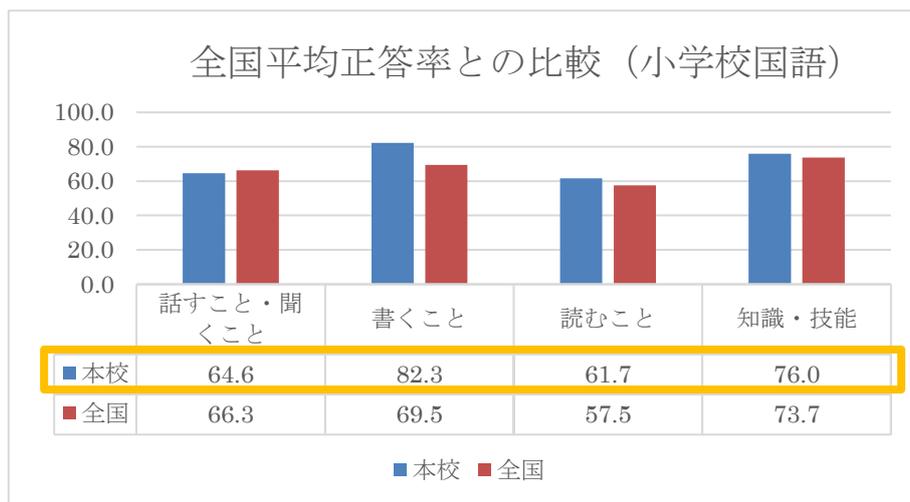
【学校では】

- 主体性を伸ばすための3つの力「自律」「尊重(自由の相互承認)」「創造」を育てていきます。「学校に行くのは楽しい」と子どもたちが思えるように、主体的、対話的で深い学びの視点で、日々授業改善を行って授業づくりをしています。
- 「自律」である自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す力を育むため、課題解決のために自分に合う学び方やペースを選択できるように取り組みます。
- 失敗は、成長につながるチャンスとして捉えています。道徳や人権集会等の行事や、会話をとおして、互いを知り、認め合う力を育てていきます。
- 「キャリアパスポート」の記録等をとおして、将来の夢や目標について考える機会を増やしていきます。

【ご家庭では】

- 「尊重」の力を育むためには、お子さんが困っているときには、大人の伴走支援(①どうしたの?②あなたは どうしたい?③私に何かできることはある?)で関わるのが大切です。
- 「諸富っ子家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや、学習の進め方を参考に、自分で決めて学習に取り組めるように励ましてください。

2 国語



(1) 結果

ほぼ全国平均と同等の結果でした。「書くこと」「読むこと」「知識・技能」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。「話すこと・聞くこと」は、全国平均正答率を下回りました。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が 2.3 ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。また、「書くこと」の正答率が、12.8 ポイント上回りました。課題は、問題形式の「選択式」の正答率を上げることです。正答率 63.9%と、全国平均正答率 64.7%を下回っています。問題文の言葉の意味理解や資料を比較したり、関連付けたりする力を苦手とする児童が多いと考えられます。主体的な学びの視点で授業改善を図り、問題文の言葉の意味を理解し、比較・関連付ける力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

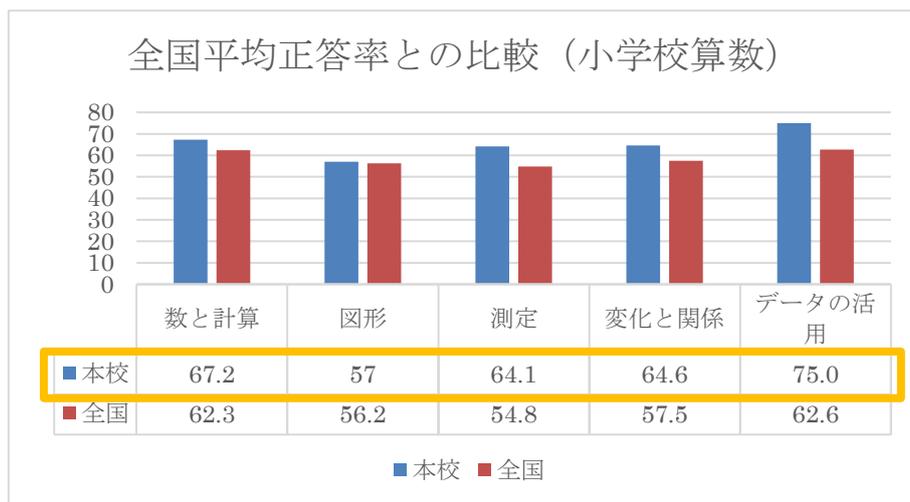
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やしたり、インタビューや案内をしたりするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。
- 始業前の朝読書を推奨したり、図書委員を中心として読書イベントをしたり、「おはなしオルゴール」さんによる読み聞かせや読書ノートの活用など読書の機会を増やすための工夫をしています。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることもつながります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、「読む」を楽しめるようになります。学校の取り組みである「にじ色50選」や「100冊達成」などについても話題にして、関心や意欲を高めていましょう。

3 算数



(1) 結果

今回の調査で、全ての領域で全国平均を上回りました。

また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「A 数と計算」「測定」「変化と関係」「データの活用」の領域が、全国平均正答率を10ポイント以上上回りました。「A 数と計算」の領域では、()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均正答率を上回っていました。一方で、同じ「A 数と計算」の領域の、分数や割合に関する問題や単位換算に関する問題の正答率が全国平均を下回っていました。主体的な学びの授業改善を図り、実生活や他教科と関連付けて理解を深めていくことが大切であると捉えます。さらに、「B 図形」の領域の、方眼上の図形の中から、台形を選ぶ問題の正答率が全国平均を下回っていました。今後、図形の観察や操作活動などを通して、図形の意味や性質を考えることができるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

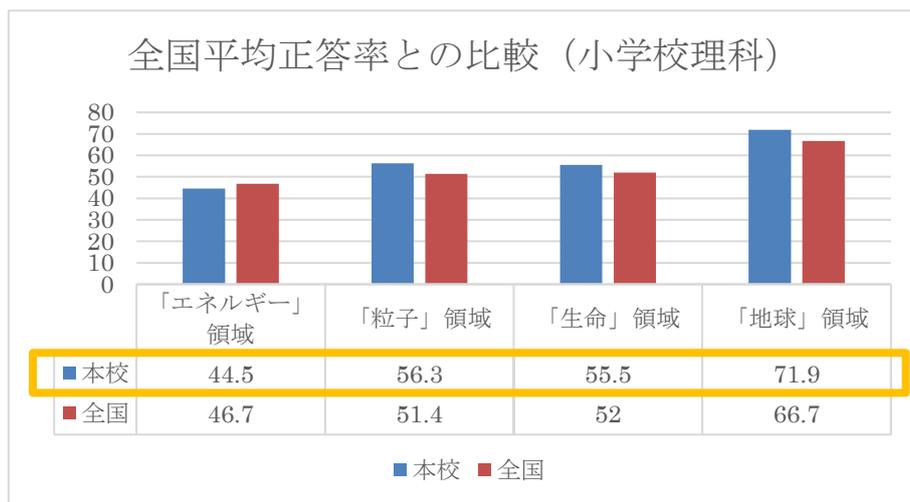
【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループ等で話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 単位の換算・図形に関しては、掲示の工夫や、定期的な問題を解く等、考える・使う機会を増やしていきます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数を好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身の回りには算数を使えるものがたくさんあります。

4 理科



(1) 結果

今回の調査で、「粒子」「生命」「地球」の領域が、全国平均を上回りました。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、評価項目「思考・判断・表現」の問題の正答率が、ほぼ全国平均を上回っていました。日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。また、「粒子」「生命」「地球」の領域は全国平均正答率を10ポイント以上上回った問題が4問ありました。自然現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えを記述する問題形式の「記述式」の問題でも、全国平均正答率より20ポイント以上上回りました。一方で、「エネルギー」の領域の、乾電池のつなぎ方や電流に関する問題の正答率が全国平均正答率より低くなりました。今後、実物を使った実験等を通して、具体的なものを抽象的な記号や図で表せるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループ等で話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- タブレットを使い、実験や観察の記録を動画や写真で記録、整理することで何度も見返すことができるようにするなど、ICTを活用した授業内容の改善を図ります。

【ご家庭では】

- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。時間があるときに一緒に行ってみることで、興味・関心が向上することもあります。